

# 株主の皆様へ

## 第22期 事業報告書

平成18年7月1日～平成19年6月30日

### 目次:

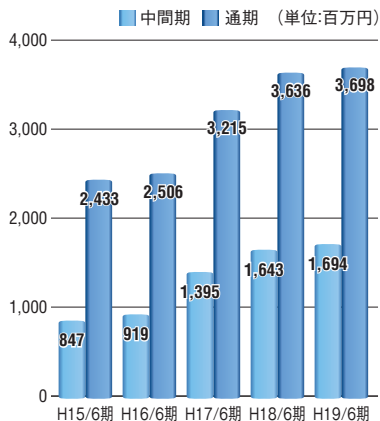
連結財務ハイライト	1
トップメッセージ	2
バイオ診断市場におけるPSS	6
トピックス	7
業績概況	9
株式の状況・会社概要	12
個人投資家説明会ご案内	13
株主メモ	14



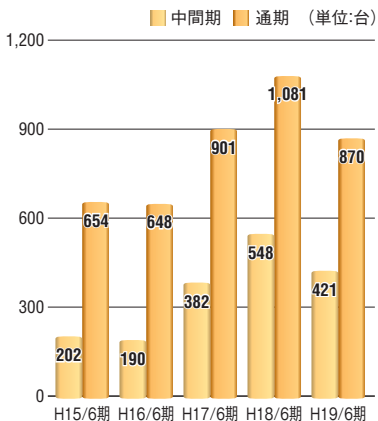
プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

# 連結財務ハイライト

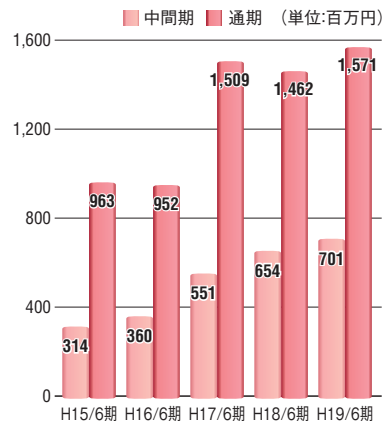
## 売上高



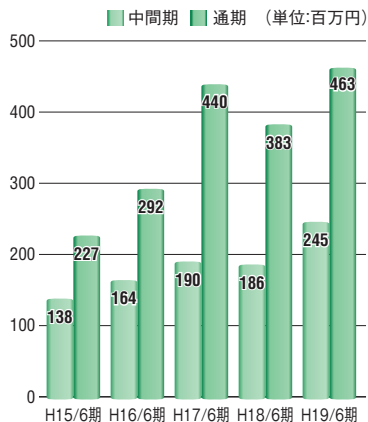
## DNA自動抽出装置等販売台数



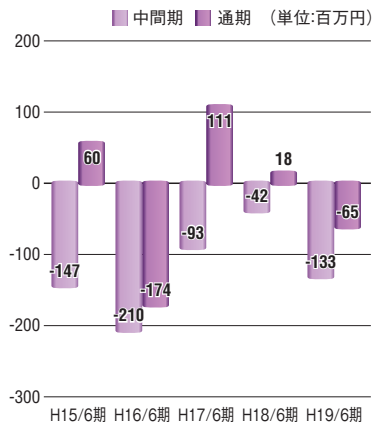
## 売上総利益



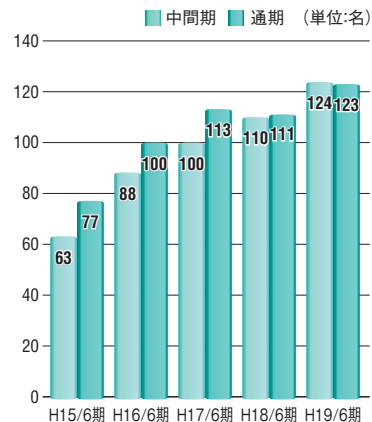
## 研究開発費



## 経常利益



## 従業員数



- (注) 1. 金額表示につきましては表示単位未満を切り捨てて記載しております。  
 2. 従業員数については、グループ会社役員、派遣社員、パート等を含む人数を記載しております。

## トップメッセージ～第23期に向けて

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。  
また、日頃より、ご支援ご鞭撻を賜り、深く感謝申し上げます。



Q：第22期の総括をお聞かせ下さい。

### 1、プロテイン（タンパク質）分野への参入

PSSは独自のシステム構想に基づいて、要素技術開発を行い核酸自動抽出装置、臨床免疫診断装置、DNA解析装置、あるいは特殊プラスチック反応容器及び試薬類を製造し、優良なパートナーを通じて世界に販売致しております。この実績は更に拡大して、第22期は、プロテイン精製装置の開発に成功し、今夏上市することができました。

バイオ産業においては遺伝子の解析が重要なテーマですが、研究の対象がDNA・ゲノム分野とポストゲノムといわれるタンパク質分野に大きく分かれていて、この二つの分野が両輪となっています。

PSSはその両分野を常に視野に入れて開発に取り組んでまいりましたが、この度、プロテイン分野への参入を果たした事は、PSSの技術思想がゲノムからポストゲノムまで、非常に広い範囲において、高い応用性と実用性を兼ね備えたもので、更なる大きな事業展開の可能性を示唆するものといえます。第22期はその意味においてPSSの歴史に残る年となりました。

このプロテイン精製関連事業につきましては、日米2社と新たな提携を致しておりますが、今までとは違った契約概念を取り入れ、機器・試薬類ともPSSブランドにて販売する事を前提とするものです。

### 2、OEM事業と直販体制の確立について

OEM事業のみに頼らず高収益を目指した独自の販売方式にも道を拓く好機を手に入れたものと考えております。

尚、OEM事業は2007年2月に米国ベンチャー企業と契約がなされ合計9社となりました。また更に複数の企業との協議も進行して、事業の安定と拡大が強化されつつあります。

### 3、自社ブランド試薬供給体制の確立

また試薬事業に関しましては、PSSキャピタルが設立したバイオコンテンツファンドと(株)ニッポンジーン（試薬製造の提携先）が出資したジェネティン(株)と契約を結び、プロテイン精製試薬を中心とした独自試薬の製造販売を本格的に行える体制を構築致しました。

### 4、バイオ業界におけるPSS

しかし、業界そのものの状況は、DNA、ゲノム、SNP、mRNA、プロテオーム、糖鎖など年々研究課題が拡大し、期待が深まる一方、それらの成果の産業化には、更に時間を要するものと一般的には考えられています。

PSSは業界の進捗をしっかりと見据え、着実な技術開発と堅実な事業方針を貫き、近い将来必ず到来するバイオ産業の大きな飛躍に備える所存です。

Q：第22期決算についてお聞かせ下さい。

第22期の業績につきましては売上3,698百万円、経常損失65百万円でした。免疫系システムの出荷の遅れや、OEM先の営業事情により機器の販売が、予想を下回りました。また新規顧客の要求に対応するために、要素技術の応用に予想以上の費用が発生したことも業績に影響を及ぼしました。

一方、消耗品群は予想を上回り、既納入製品のユーザー様における当社製品の活用は、順調に拡大していることが裏付けられています。

Q：第23期に向けての決意をお聞かせ下さい。

いずれにせよ、今回発表した数字はいまだ株主の皆様到底ご満足頂けるものではなく、お詫びを申し上げるとともに、1年でもはやく累積損失を解消し、配当を実施致せるよう、第22期より練ってまいりました戦略を、第23期は全力で実践していくことをお約束申し上げます。

何卒宜しくPSSの現状をご理解を賜り、相変わらずのご支援、ご鞭撻の程、衷心よりお願い申し上げます。

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
代表取締役社長

田島秀二



## Precision System Science USA, Inc.

代表取締役社長 小幡 公道

第22期をホップの年に例えて第23期はステップの年にして来期のジャンプを目指します！

Q：社名変更についてお聞かせ下さい。

まずはじめに社名変更についてご報告申し上げます。PSSの米国子会社であるPSS Bio Instruments, Inc. (PBI) は、既に業界に浸透しているPrecision System Scienceブランドを全面的に押し出していくため、7月23日から社名を改めPrecision System Science USA, Inc. (PSS USA) となりました。

Q：第22期についてお聞かせ下さい。

### 1, 業績について

第22期は、これまでの努力がようやく実を結びはじめた最初の年となりました。期初の目標はわずかに下回ったものの、2億円を超える売上げを、ほとんど新規事業で達成できました。

### 2, 米国OEM契約について

米国における最初のOEM契約先であるInvitrogenとの仕事は開始1年で1億円の事業に育ち、今後のPSS USAの事業展開において、安定した収益をもたらしてくれる大事な顧客となりました。もう一つのOEM顧客であるBeckmanは、仕様決定に若干手間取り、昨年度はプロト機の納品まで進んだ段階でしたので、本格的製品販売による収益への貢献は今年度からとなり、従ってBeckmanも第2の安定顧客として今年度は貢献してくれるものと信じています。さらにSeattleにあるベンチャー企業NanoStringとのOEM契約に基づくプロト機の作製も順調に進んでおり、今年度は販売にこぎつけるものと思います。本装置は、核酸抽出装置から全自動核酸分析機へ一歩近づいたもので、個々のmRNAをPCR等の増幅無しに測定できる大変ユニークなものですので、PSSにとっても新分野を切り開くための一つの重要な応用例となるでしょう。

### 3, プロテオミクス（タンパク質）市場の参入について

また、戦略的プロジェクトと位置づけて進めてきたプロテオミクス事業への参入では、PSS USA内のR&DチームがMagtration技術に基づく製品開発を達成すると共に、鶏抗体を用いてタンパク質分析用の検体前処理を行う技術と製品を持ったGenWay社と協力して、製品開発及び市場開拓を進め、昨年度は治験及び限定顧客への試験販売を行い確かな手ごたえをえることができましたので、今年度の本格的販売開始に向けて現在最終調整が進行中です。

Q：米国バイオ市場におけるPSS USAについてお聞かせ下さい。

第22期も堅調だった米国におけるバイオ市場は第23期も順調に推移し、投資も公私共に盛んなものと推察しており、その中で、PSS USAは、更なる新規事業獲得を目指して、磁性粒子を用いた核酸抽出にこだわることなく幅広い技術・市場でのOEMユーザーの獲得、プロテオミクス製品販売、また核酸抽出機・試薬販売を柱に、強力に事業展開を進めていきたいと思っております。米国にはPSS USAの狙いに答えてくれる企業・ユーザーが数多くあり、それらを発掘し、事業に結びつける経験と知識を持ったスタッフもそろっております。

Q：第23期に向けての決意についてお聞かせ下さい。

事業展開にあたり、PSS USAの第22期がホップの年とするなら、第23期はステップであり、第24期は大きくジャンプする年にするを事業展開の短期目標として、そのためには今年度何をやるべきかを社員全員が常に念頭に置き、効率的かつ迅速に仕事を進めてまいります。今年度もよろしくお願いたします。

## Precision System Science Europe GmbH

### President

Udo Kubowski (ウド・クボウスキー)

PSSグループのシナジー効果を最大化して、さらなる飛躍を!

Q：第22期を総括して頂けますか？

昨年度は私たちの独自技術（Magtration® Technology）が、ヨーロッパのOEM先にだけでなく、アメリカのOEM先にも拡大、まさに世界的規模での展開に至りました。そのグローバルな販売展開が、PSS各社の単純な足し算ではなく、PSSグループのシナジーが発揮されることによって、大きな成果につながったこと、同時に、PSS Europe（PSS-E）がその販売戦略の一翼を担えたという点で、私自身、大変、誇らしく思っております。

業績としては、PSS-Eの売上高は前期比4.8%減少しましたが、利益率の改善により最終利益は、前期比で61.6%増と拡大できました。利益率が改善できた理由は、ヨーロッパにおける現地製造業者（消耗品）と顧客（OEM、直販、ヨーロッパ代理店網）との関係が強化できた事によるものです。更にはロシュ社と5年間にわたるプラスチック消耗品供給に関して合意する事ができ、PSS-EのみならずPSSグループ全体の中長期的な業績に対する貢献につながることができました。

こうした事を踏まえ、PSS-Eのビジネス主要4課題で着実な成果が得られたと考えています。

- 1, OEM取引の推進
- 2, 代理店を通じた販売強化
- 3, ドイツ及びオーストリアでの直接販売推進
- 4, 保守・点検、修理サービス



昨年、私はOEMを除く他の3つの領域での成長が、ヨーロッパにおけるPSSブランドが強化され、その結果として、新たなOEM先の発掘につながると指摘しました。実際、この6～9ヶ月間に潜在的ユーザー層において、PSSの企業認知度が著しく向上しました。

Q：第23期に向けての事業展開における抱負をお聞かせ下さい。

第23期においては、ヨーロッパ市場における、新規ビジネスの構築に重点を置きます。

その実現に向けて、すでに市場調査を行ない、研究開発分野だけではなく、診断分野において新規ビジネスへの手ごたえをつかんでおります。

新規ビジネスの構築は今期最重要テーマと位置づけており、ここにPSS-E資源の最優先投入を行ない成果につなげる考えです。その他のビジネスは、当面現状維持としますが、再び立ち戻った際には、新設のヨーロッパの販売ネットワークを利用し、大きな飛躍につなげます。

最後になりますが、PSS-Eとしては、PSSグループのシナジーを常に念頭に置いて、株主の皆様への期待に応えられるよう、最大の努力を続けてまいります。

## PSSキャピタル株式会社 代表取締役社長 秋本 淳



Q：第22期の活動についてお聞かせ下さい。

PSSキャピタルの活用によるPSSグループの事業領域の拡大が始まっています。

PSSキャピタルが設立され、1年が経過いたしました。初年度では、20億円のファンド設立に成功したことが大きく貢献し、ファンド管理報酬の獲得により、売上高32百万円、当期純利益11百万円となり、順調な立ち上がりとなりました。

投資先の開拓活動としては、従来からPSSが何らかの形でコラボレーションを行ってきた大学教授やバイオベンチャー企業などと接触を図り、PSS技術との連携による具体的な事業化構想に関して、10以上の教授や会社と議論を重ねることができました。そうした中で、下記のとおりファンドによる投資第1号を実施いたしました。

Q：ファンドによる投資第1号案件についてお聞かせ下さい。

2007年5月、第1号の投資先として、(株)ニッポンジーン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：米田祐康）が設立した子会社で、試薬の開発・製造を手掛けるジェネティン(株)に対し60百万円の投資を実行いたしました。

ニッポンジーンは、富山県に本拠地を構える試薬メーカーで（登記上の本社は東京都）、PSSとは、約2年前から様々な交流を行っております。PSSの自動化装置に搭載されるプレバック方式の核酸抽出試薬に関しても、その製造業務を同社に委託しています。また、お互いの研究開発部門の交流も盛んであり、コラボレーションによる新製品開発の検討も行われてまいりました。

今般、同社の100%子会社としてジェネティンが設立され、そこにPSSキャピタルが運営するファンドである「バイオコンテンツ投資事業有限責任組合」より出資を行いました。ジェネティンの取扱製品は、PSSのシステム化技術とニッポンジーンの試薬開発技術が融合したもので、細菌検出

やDNAメチル化解析などの分野をターゲットとし、1年内での販売開始を予定しております。一方で、足下の事業として、PSSが販売展開するプレバック試薬の製造請負も行っていく方針で、既にPSSからの受託製造を開始しております。現在、月々3百万円程度の売上計上となっております。

なお、ジェネティンの事業が軌道に乗るまでの間は、PSSキャピタルが全面的にバックアップしていく方針であり、PSSキャピタルの社長である私が、当面の間、同社社長を兼務することとなっております。

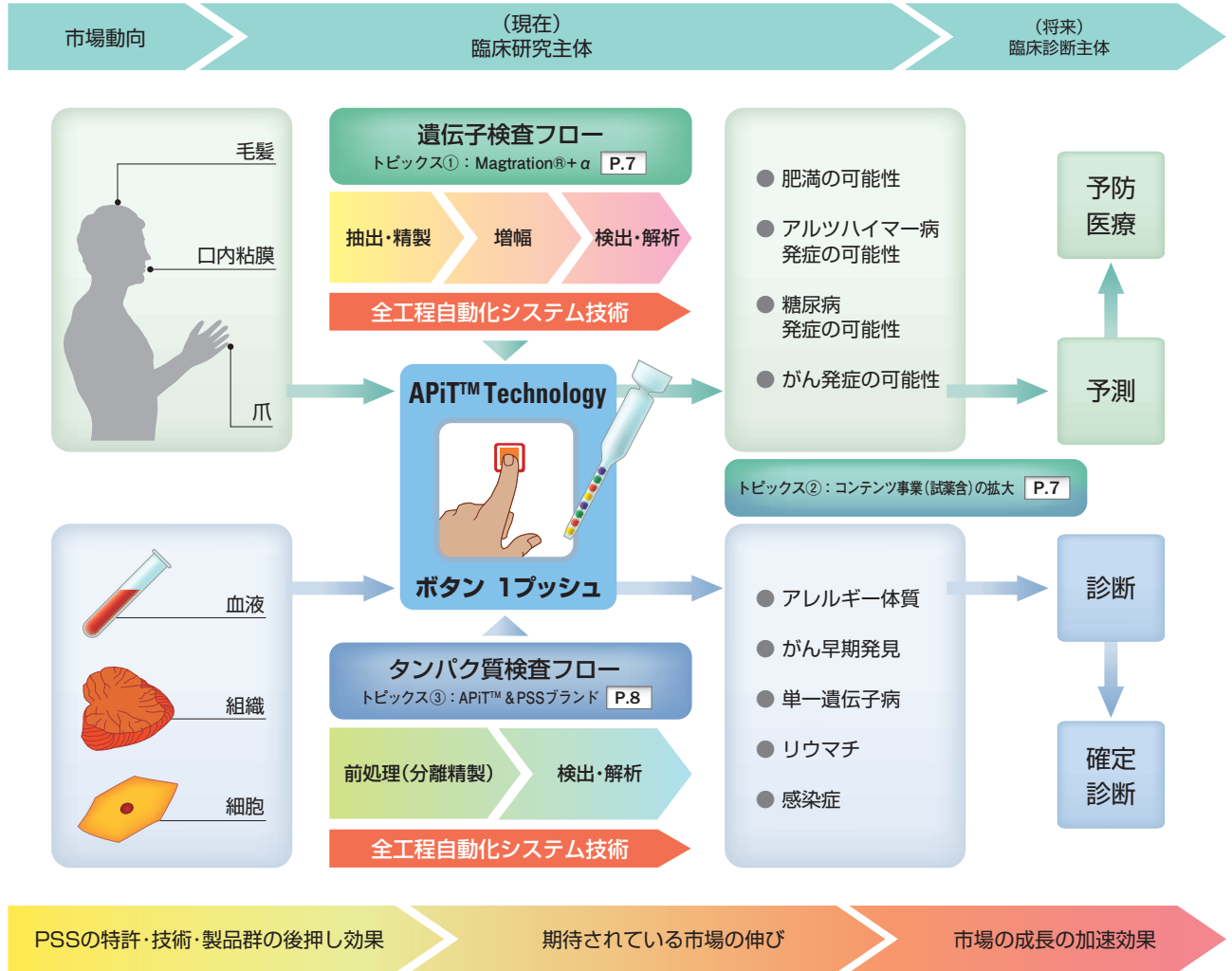
Q：今後の活動方針についてお聞かせ下さい。

上記第1号投資先に続き、現在、協議を進めている投資候補先も数社ありますので、年内には、更なる投資実行のご報告ができるものと考えております。また、プレスリリースや事業報告書などを通じて、それら投資先とPSSがどのようにコラボレーションしていくのかを具体的に説明させていただくつもりです。

今後につきましても、PSS技術と連携することにより大きく発展する可能性が高いバイオベンチャー企業に的を絞って、投資実行していく方針であります。そして、投資先の育成とPSSグループの事業領域の拡大が結びつき、お互いにWin-Winの関係を構築できるよう努力していきたいと考えておりますので、株主の皆様方におかれましても、今後のPSSキャピタルの活動をご注視いただき、ご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# バイオ診断市場におけるPSS

## PSSのAPiT™Technologyにより可能性を秘めた「ボタン一つで行える」診断システム



# トピックス

## トピックス①：Magtration® + $\alpha$

核酸自動抽出装置から全自動遺伝子解析装置へ向けた取り組み

PSSの第9社目のOEM契約を締結  
「米国バイオベンチャー、ナノストリング・テクノロジー社とOEM契約を締結」  
(平成19年3月16日リリース)

・個々のmRNAをPCR等の増幅無しに測定できるユニークな技術により  
PSSにとっても「Magtration® +  $\alpha$ 」技術における新分野を切り開くための  
重要なOEM契約となりました。

### Q&A

Q：新聞報道によると幾つかの全自動化技術が紹介されているが、その中でPSSの技術の特徴は？

A：PSSが目指す「ボタン一つで行える」臨床診断システムにおいて、遺伝子検査分野でPSSが考えているのは、1つあるいは少数のSNPを見分けることに照準を当てているのではなく、マルチプレックス（SNPのグループ）測定により極めて精度高く遺伝子診断ができると考えています。その意味では、遺伝子抽出精製分野技術に実績（日本赤十字NAT検査）及び強みを持つ弊社技術との組み合わせは理に合ったもので、今後も新たな技術融合を模索しております。

## トピックス②：コンテンツ事業（試薬含）の拡大

独自試薬の供給体制構築により臨床研究開発を支援

子会社のPSSキャピタルが設立したバイオコンテンツファンドとニッポンジーン（試薬製造の提携先）が出資したジェネティンと契約を結び試薬供給体制を強化  
「バイオコンテンツ投資事業有限責任組合」による第一号投資実施のお知らせ  
(平成19年6月8日リリース)

<投資先概要>

会社名：ジェネティン株式会社

所在地：東京都千代田区神田錦町1丁目5番地

代表者：代表取締役社長 秋本 淳

設立日：2007年4月25日

資本金：45百万円（別途、資本準備金45百万円）

株主構成：バイオコンテンツ投資事業有限責任組合 66.7%  
株式会社ニッポンジーン 33.3%

### Q&A

Q：PSSにおいての意義は？

A：PSSの独自試薬の供給を自社施設を持たずに構築できた事にあります。更にバイオコンテンツ\*事業に対して、今後独自試薬のラインナップを充実させて、現在の分子診断市場で主体となっている臨床研究の支援を行う事によりコンテンツ事業への裾野拡大を目指していきます。

\*バイオコンテンツ：各種生体物質や生体情報のうち、測定・計測・検体加工処理装置等のシステムインフラに搭載できる産業上有用なコンテンツ（試薬を含む）を指します。分子診断市場において全自動化システム構築を目指すPSSにおいては、技術特許とバイオコンテンツのコラボレーションが事業上において重要なキーワードとなります。

# トピックス

## トピックス③：APiT™ & PSSブランド

### PSSブランド製品（装置・試薬・チップ）の販売強化！ APiT™Technologyによりタンパク質精製の自動化を実現



PSS、GEヘルスケア バイオサイエンスと『タンパク質の自動精製装置及び試薬キット』（Purelumn™ システム）に関して、独占販売契約を締結（平成19年7月26日プレスリリース）

#### プレスリリースの概要

- ・ 2社間で契約された製品は、PSSの持つDNA抽出・精製技術とGEヘルスケアのもつタンパク質分離カラム技術を結合するものです。
- ・ PSSがPSSブランドで、精製装置、精製試薬、レジソチップ類をGEヘルスケアに供給し、GEヘルスケアが日本国内において独占的に販売することで合意しました。
- ・ Purelumn™システムは、GEヘルスケアにより、2007年8月1日から受注開始されます。
- ・ また、将来の海外展開については、改めて協議することで合意しております。

#### Q&A

Q1：バイオ業界全般にとっての意義は？

A：タンパク質解析において、不可欠で重要な前処理作業は、これまで煩雑なマニュアル操作を繰り返すか大型の精製システムで行うことが中心でした。今回、PSSがこれまでのDNA/RNA自動抽出装置の実績をベースに開発したシステム（Purelumn™）は、高精度の同時多検体処理を自動化することで、研究者の負担を軽減し、研究の効率化を実現します。同時に、クロマトグラフィーの取り扱いを苦手としてきた研究者の方にも簡単にお使いいただける設計のため、今まで以上にタンパク質精製を身近に感じる方が増える可能性があります。

Q2：PSSにとっての意義は？

A：まず、PSSがこれまで実績を積み上げてきた核酸（DNA/RNA）分野と並んで重要と位置づけているタンパク質分野に本格化参入したことに大きな意義があります。また、タンパク質精製市場の第一人者であるGEヘルスケアと販売契約を締結できたことは、PSSの自動化技術、試薬生産技術が評価されたものと考えております。これまでOEMを中心に展開してきたPSSが、本格的にPSSブランドで販売開始することでも、意義深いと考えております。

Q3：第23期の業績へのインパクトは？

A：大きな期待をしていますが、初年度において、PSSの業績への影響は軽微なものだと考えています。但しPSSはタンパク質についても、核酸（DNA/RNA）と同様なマーケットがあると認識しており、今後は注力していく分野と考えております。

# 連結業績概況

	第21期連結会計年度		第22期連結会計年度		前年同期比 %
	百万円		百万円		
売上高	<b>3,636</b>		<b>3,698</b>		<b>1.7</b>
売上総利益	<b>1,462</b>		<b>1,571</b>		<b>7.5</b>
営業利益又は 営業損失(△)	<b>12</b>		<b>△57</b>		—
経常利益又は 経常損失(△)	<b>18</b>		<b>△65</b>		—
当期純損失	<b>250</b>		<b>143</b>		—

## 第22期連結業績のポイント

売上：3,698百万円（前期比1.7%増加）

販売先の多角化と消耗品販売の  
拡大等によるもの（表1・表2参照）

販売管理費：1,629百万円（前期比12.4%増加）

新規研究開発投資（463百万円、前期比20.9%増）・OEM  
先対応の人員確保に伴う諸経費の増加によるもの。

## ■売上について

表1

取引先別売上高(単位：百万円)

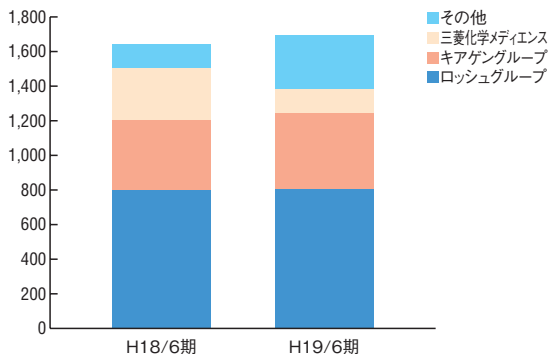
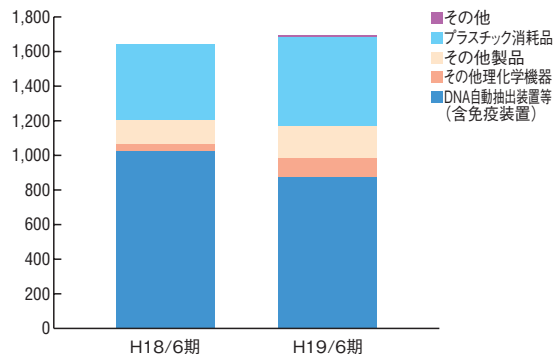


表2

製品区分別販売状況(単位：百万円)



	第21期連結会計年度		第22期連結会計年度		前年同期比 %
	百万円	構成比 (%)	百万円	構成比 (%)	
ロッシュグループ	<b>1,870</b>	<b>51.4</b>	<b>1,653</b>	<b>44.7</b>	<b>△11.6</b>
キアゲングループ	<b>984</b>	<b>27.1</b>	<b>1,022</b>	<b>27.7</b>	<b>3.8</b>
三菱化学 メディエンス	<b>364</b>	<b>10.0</b>	<b>251</b>	<b>6.8</b>	<b>△31.1</b>
その他取引先	<b>416</b>	<b>11.5</b>	<b>770</b>	<b>20.8</b>	<b>84.9</b>
合計	<b>3,636</b>	<b>100.0</b>	<b>3,698</b>	<b>100.0</b>	<b>1.7</b>

	第21期連結会計年度		第22期連結会計年度		前年同期比 %
	百万円	構成比 (%)	百万円	構成比 (%)	
DNA自動 抽出装置等	<b>2,120</b>	<b>58.3</b>	<b>1,805</b>	<b>48.8</b>	<b>△14.9</b>
その他理化学機器	<b>185</b>	<b>5.1</b>	<b>293</b>	<b>7.9</b>	<b>57.9</b>
その他製品	<b>301</b>	<b>8.3</b>	<b>401</b>	<b>10.9</b>	<b>33.2</b>
商品(プラス チック消耗品)	<b>1,029</b>	<b>28.3</b>	<b>1,165</b>	<b>31.5</b>	<b>13.2</b>
その他営業収入	—	—	<b>32</b>	<b>0.9</b>	—
合計	<b>3,636</b>	<b>100.0</b>	<b>3,698</b>	<b>100.0</b>	<b>1.7</b>

# 連結財務諸表 (要旨)

- ・連結貸借対照表：前連結会計年度末比
- ・連結損益計算書：連結概況にて説明
- ・連結キャッシュ・フロー計算書：前・当連結会計年度

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	前連結会計年度末 (平成18年6月30日現在)	当連結会計年度末 (平成19年6月30日現在)	対前年末比 %
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	3,844,447	3,980,714	3.5
固定資産	1,040,538	1,188,533	14.2
有形固定資産	990,001	1,069,109	8.0
無形固定資産	23,863	18,357	△23.1
投資その他の資産	26,673	101,067	278.9
資産合計	4,884,985	5,169,248	5.8
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	962,734	1,149,502	19.4
固定負債	994,047	1,165,297	17.2
負債合計	1,956,782	2,314,799	18.3
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	2,884,644	2,741,887	△4.9
資本金	2,041,278	2,041,778	0.0
資本剰余金	2,507,844	2,508,354	0.0
利益剰余金	△1,664,477	△1,808,244	—
評価・換算差額等	43,504	112,516	158.6
その他有価証券評価差額金	3,289	16,197	392.4
繰延ヘッジ損益	△18	114	—
為替換算調整勘定	40,233	96,204	139.1
新株予約権	54	44	△18.5
純資産合計	2,928,203	2,854,448	△2.5
負債・純資産合計	4,884,985	5,169,248	5.8

- ※1 主な増加要因（前期比147百万円の増加）  
事業活動のための機械取得、製造活動のための金型製作及びパイオコンテンツ投資事業有限責任組合への投資がありました。
- ※2 主な増加要因（前期比186百万円の増加）  
主な増加要因は、短期借入金が200百万円増加したためです。
- ※3 主な増加要因（前期比171百万円の増加）  
主な増加要因は、社債が200百万円増加したためです。

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前連結会計年度 自平成17年7月1日 至平成18年6月30日	当連結会計年度 自平成18年7月1日 至平成19年6月30日	対前年比 %
売上高	3,636,933	3,698,177	1.7
売上原価	2,174,778	2,126,871	△2.2
売上総利益	1,462,155	1,571,305	7.5
販売費及び一般管理費	1,449,334	1,629,281	12.4
営業利益	12,820	△57,975	—
営業外収益	36,741	51,966	41.4
営業外費用	30,658	59,803	95.1
経常利益	18,903	△65,812	—
特別利益	4,171	84	△98.0
特別損失	237,792	13,832	△94.2
税金等調整前当期純損失	214,717	79,560	—
法人税、住民税及び事業税	35,554	64,207	80.6
当期純損失	250,271	143,767	—

## 連結キャッシュ・フロー(CF)計算書

(単位：千円)

科目	前連結会計年度 自平成17年7月1日 至平成18年6月30日	当連結会計年度 自平成18年7月1日 至平成19年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	133,252	△51,289
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,047	△123,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	258,928	420,931
現金及び現金同等物に係る換算差額	20,392	17,945
現金及び現金同等物の増加額	418,621	263,770
現金及び現金同等物の期首残高	796,219	1,214,841
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,214,841	1,478,611

## 個別財務諸表 (要旨)

## 通期の見通し

### 個別貸借対照表

(単位：千円)

科目	前事業年度末 (平成18年6月30日現在)	当事業年度末 (平成19年6月30日現在)	対前年末比 %
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	3,348,483	3,446,281	2.9
固定資産	1,466,956	1,394,311	△5.0
有形固定資産	815,964	817,739	0.2
無形固定資産	23,135	17,769	△23.2
投資その他の資産	627,856	558,802	△11.0
資産合計	4,815,439	4,840,592	0.5
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	839,692	980,679	16.8
固定負債	992,501	1,163,583	17.2
負債合計	1,832,193	2,144,262	17.0
<b>(純資産の部)</b>			
株主資本	2,979,920	2,679,973	△10.1
資本金	2,041,278	2,041,778	0.0
資本剰余金	2,507,844	2,508,354	0.0
利益剰余金	△1,569,202	△1,870,158	—
評価・換算差額等	3,271	16,312	398.7
その他有価証券評価差額金	3,289	16,197	392.5
繰延ヘッジ損益	△18	114	—
新株予約権	54	44	△18.5
純資産合計	2,983,245	2,696,330	△9.6
負債・純資産合計	4,815,439	4,840,592	0.5

### 個別損益計算書

(単位：千円)

科目	前事業年度 自 平成17年7月1日 至 平成18年6月30日	当事業年度 自 平成18年7月1日 至 平成19年6月30日	対前年比 %
売上高	3,060,998	2,964,446	△3.2
売上原価	1,854,896	1,781,026	△4.0
売上総利益	1,206,101	1,183,420	△1.9
販売費及び一般管理費	1,115,399	1,252,205	12.3
営業利益	90,701	△68,785	—
営業外収益	21,320	33,916	59.1
営業外費用	30,658	56,995	85.9
経常利益	81,362	△91,864	—
特別利益	3,904	1,757	△55.0
特別損失	275,914	208,335	△24.5
税引前当期純損失	190,647	298,442	—
法人税、住民税及び事業税	2,290	2,514	9.8
当期純損失	192,937	300,956	—

新規OEM先の獲得、タンパク質精製分野への本格参入などによる販売先の多角化を図り、確実な成長の実現に努めていますが、依然として、主要OEM先向け製品出荷の動向により、業績に大きな影響が出る状況にあります。自社ブランド販売強化を通じた収益率の向上、日米欧3極事業の効率運営をさらに努めてまいります。

### 平成20年6月期の業績予想

(平成19年7月1日～平成20年6月30日)

	予想売上高 (百万円)	予想経常利益 (百万円)	予想当期純利益 (百万円)
連結業績予想	4,000	70	30
単体業績予想	3,100	30	30

### 「平成19年6月期 決算短信 (連結)」の一部訂正について

(平成19年8月27日リリース)

平成19年8月9日に発表しました「平成19年6月期 決算短信 (連結)」の記載内容に関し、当社と連結子会社との取引及び連結子会社間の取引について会計処理に誤りがあることが判明し、訂正致しました。また、一部集計上の誤り等についても訂正しております。

当社と連結子会社間の処理を適正に行なうための、当社グループの体制が万全でなかったために生じた重大な事態であると反省しております。

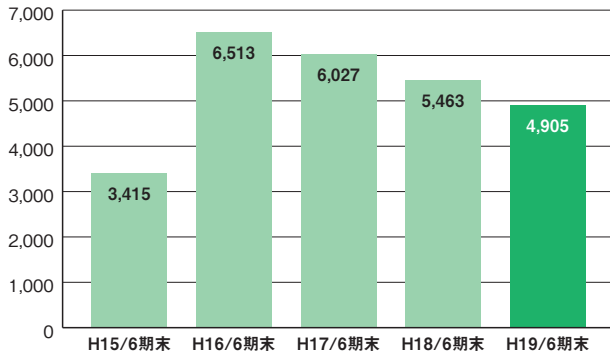
結果的に、平成19年8月9日の決算発表が不完全であった事実を深刻に受け止め、再びこのようなことが生じないよう、グループ会計のルールを徹底するとともに、不備を未然に発見、防止するための内部統制を強化し、正確で迅速な開示につとめてまいります。

## 株式の状況 (平成19年6月末現在)

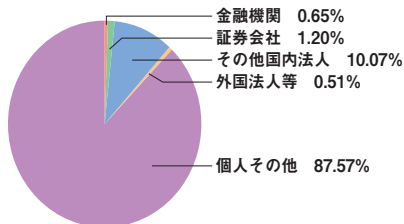
発行可能株式総数 ..... 171,200株  
 発行済株式の総数 ..... 42,840株  
 株主数 ..... 4,905名  
 大株主

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
田島 秀二	11,373	26.55
有限会社ユニテック	3,000	7.00
小幡 公道	436	1.02
ツバメ工業株式会社	355	0.83
井上 功	339	0.79
村山 一友	300	0.70
秋本 淳	276	0.64
佐賀 健二	249	0.58
プレジジョン・システム・サイエンス従業員持株会	243	0.57
株式会社ジャフコ	226	0.53

### 株主数推移(名)



### 所有者別保有株式数



## 会社概要 (平成19年6月末現在)

商 号：プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
 (英文社名)：Precision System Science Co., Ltd.  
 設立年月日：1985年7月17日

役 員：代表取締役社長 田島 秀二  
 常務取締役 小幡 公道  
 取締役 高橋 正明  
 取締役 秋本 淳  
 取締役 長岡 信夫  
 取締役 西村 滯司  
 取締役 平原 善直  
 取締役 地崎 修  
 監査役 高橋 達雄  
 監査役 寛 悦生  
 監査役 鈴木 啓靖

(注)1. 地崎 修氏は会社法第2条第15号で定める社外取締役です。  
 2. 寛 悦生氏及び鈴木啓靖氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

資 本 金：2,041百万円

従 業 員 数：123名

(グループ会社役員、派遣社員、パート等を含む)

連結子会社：●PSS Bio Instruments, Inc.(米国)

●Precision System Science Europe GmbH(ドイツ)

●ユニバーサル・バイオ・リサーチ(株)(千葉県松戸市)

●PSSキャピタル(株)(千葉県松戸市)

(注) PSS Bio Instruments, Inc.は本年7月23日にPrecision System Science USA, Inc.に社名変更しております。

事 業 内 容：遺伝子・タンパク質解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化装置、その他理化学機器、ソフトウェア等の開発及び製造販売、ならびに自動化装置に使用される試薬及びプラスチック消耗品の製造販売等

## 個人投資家説明会ご案内

	大阪開催	東京開催
開催日時	平成19年11月10日(土) 13:00～15:30(予定) <sup>※1</sup>	平成19年11月17日(土) 13:00～17:00(予定) <sup>※1</sup>
会場	ハートンホール 大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12階 電話06-6258-1141	大和コンファレンスホール 東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワーN館11階 電話03-3283-7000
主催者	株式会社インベストメントブリッジ (ブリッジサロン <sup>※2</sup> :2-3社合同説明会)	大和インベスター・リレーションズ株式会社 (個人投資家説明会 <sup>※3</sup> :4社合同説明会)
内容	社長田島秀二より、直近の業績概況及び事業進捗について説明申し上げます。	
ご参加 申込方法	事業報告書裏表紙の申込葉書に必要事項をご記入の上、弊社宛で返送ください。 後日、主催者もしくは弊社よりご案内状を送付申し上げます。 なお、ご案内状のお届け方法はメールもしくは郵送をご選択いただけます。 <sup>※4</sup>	
お問い合わせ先	プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 業務本部 IR・社長室 TEL:047-303-4800	

※1 記載しております開催時間につきましては、予定であるため変更される可能性があります。詳細は、後日お届けするご案内をご参照ください。

※2 ブリッジサロンは、(株)インベストメントブリッジが主催するIR会社説明会です。

※3 個人投資家向け説明会は、大和インベスター・リレーションズ㈱が主催するIR会社説明会です。

※4 各主催者及び弊社は、メールもしくは参加申込葉書にご記載いただいた情報につきまして、上記以外の目的には利用いたしません。

平成18年11月 個人投資家説明会より（東京）



平成19年4月 個人投資家説明会より（大阪）



# 株主メモ

## ●事業年度

毎年7月1日から翌年6月30日まで

## ●定時株主総会

毎年9月

## ●基準日

定時株主総会 毎年6月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

## ●剰余金配当の基準日

期末配当金 毎年6月30日 中間配当金 毎年12月31日

## ●株主名簿管理人

東京都中央区八重州一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社

### ◇同事務取扱場所

東京都中央区八重州一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

### ◇郵便物送付先

〒135-8722

東京都江東区佐賀一丁目17番7号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

### ◇電話照会先

TEL 0120-288-324(フリーダイヤル)

### ◇URL

<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

『お手続き内容』で一部届出用紙の出力ができます。

### ◇同取次場所

みずほ信託銀行株式会社 全国各支店

みずほインバスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店

## ●公告方法

当社ホームページに掲載。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

※当社の貸借対照表及び損益計算書は、証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム(EDINET)にてご覧いただけます。

## プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

# 個人投資家向け会社説明会

ご参加を希望される会社説明会にをご記入の上、  
本状を弊社宛ご返送ください。

## 大阪開催

**開催日時** 平成19年11月10日(土) 13:00~15:30(予定)

**会場** ハートンホール  
大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12階

**TEL** 06-6258-1141

## 東京開催

**開催日時** 平成19年11月17日(土) 13:00~17:00(予定)

**会場** 大和コンファレンスホール  
東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワーN館11階

**TEL** 03-3283-7000

## ●お問い合わせ

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 業務本部 IR・社長室  
TEL:047-303-4800

郵便はがき

271-8790

料金受取人払郵便

松戸局承認

358

差出有効期間  
平成19年12月31日  
まで(切手不要)

千葉県松戸市上本郷88  
プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
業務本部 IR・社長室 行



お名前	フリガナ _____	年 齢	歳
	□□□□-□□□□		
ご住所	案内状のお届け方法をお選びください。 <input type="checkbox"/> 郵送 <input type="checkbox"/> Eメール (メールアドレス: _____)		
TEL			

## PSS IRメール配信のご案内

PSSでは、個人株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを高めるため、Eメール配信を行っております。プレスリリースや会社説明会のご案内などを、オンタイムでお知らせしております。

PSSホームページ(<http://www.pss.co.jp>)からメールアドレス登録ができますので、是非ご登録ください。

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社  
業務本部 IR・社長室

〒271-0064 千葉県松戸市上本郷88  
TEL:047-303-4800 FAX:047-303-4810  
Eメール:ir@pss.co.jp

<http://www.pss.co.jp>